

令和2年6月11日
都市局公園緑地・景観課
住宅局市街地建築課

令和2年度「都市景観大賞」各賞の選定

～良好な景観に資する地区・活動について、特に優れたものを表彰～

都市景観大賞（主催：「都市景観の日」実行委員会）は、良好な景観の形成に資する普及啓発活動の一環として、平成3年度より毎年度実施されている表彰制度です。景観に関する優れた地区・活動に対し、「大賞」「優秀賞」等を授与し、更なる取組の契機としていただくとともに、良好な景観の形成が推進されることを目的に、全国に広く紹介しております。

今般、「都市景観の日」実行委員会に設置した審査委員会において応募内容を審査し、各部門において大賞（国土交通大臣賞）など各賞が選定されました。（詳細は別添参照）

なお、例年開催しております「まちづくりと景観を考える全国大会」につきましては、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から中止となりました。

○大賞（国土交通大臣賞）

部門	受賞地区名／受賞活動名	所在地／活動範囲
都市空間部門	南町田グランベリーパーク地区	東京都町田市
景観まちづくり活動・教育部門	北斎通りまちづくりの会の取り組む景観まちづくり活動	東京都墨田区

【問い合わせ先】 国土交通省 代表：03-5253-8111
都市局公園緑地・景観課 佐藤、山崎（内線 32982、32985）
電話：03-5253-8954（直通）、FAX：03-5253-1593
住宅局市街地建築課 畑、山内（内線 39633、39635）
電話：03-5253-8515（直通）、FAX：03-5253-1631

別添

令和2年度

都市景観大賞

受賞概要

都市空間部門

景観まちづくり活動・教育部門



「都市景観の日」実行委員会

都市空間部門 受賞地区一覧

大賞 国土交通大臣賞

地区名	地区面積	応募者
南町田グランベリーパーク地区 (東京都町田市)	約 20ha	<ul style="list-style-type: none"> ・町田市 ・東急株式会社 ・東急電鉄株式会社 ・株式会社東急レクリエーション ・株式会社ソニー・クリエイティブプロダクツ ・株式会社東急設計コンサルタント ・LAGUARDA.LOW ARCHITECTS ・Fd Landscape ・ティーハウス建築設計事務所 ・株式会社森緑地設計事務所 ・株式会社レジファインクリエイト

優秀賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

地区名	地区面積	応募者
奥出雲たたら製鉄 及び棚田の文化的景観 (国選定重要文化的景観) (島根県仁多郡奥出雲町)	約 1563.3ha	<ul style="list-style-type: none"> ・奥出雲町 ・奥出雲町教育委員会 ・奥出雲町農業遺産推進協議会 ・奥出雲町文化体験実行委員会 ・公益財団法人可部屋集成館 ・公益財団法人絲原記念館 ・一般社団法人奥出雲地域活性化プロジェクト ・大原新田棚田保全管理委員会
尾道市景観地区 (尾道・向島歴史的風致地区) (広島県尾道市)	約 200ha	<ul style="list-style-type: none"> ・尾道市
徳山駅周辺地区 (山口県周南市)	約 150ha	<ul style="list-style-type: none"> ・周南市 ・周南市中心市街地活性化協議会 ・山口県建築士会徳山支部
北大東島の燐鉱山由来の 文化的景観地区 (沖縄県島尻郡北大東村)	約 160ha	<ul style="list-style-type: none"> ・北大東村 ・北大東村教育委員会 ・中部大学都市デザイン研究室 ・株式会社国建 ・株式会社与儀組 ・うふあがり島景観協議会

総評

審査委員長 陣内 秀信

本年度の応募は7件と少なかったが、多彩なアプローチ、意欲的なテーマへの取組が見られた。新たな傾向として、いわゆる「文化的景観」に関する応募が2件あった。「都市景観大賞」に相応しいか否かの議論がなされ、いずれも田園景観中心の応募ではなく、産業遺産、町の施設、暮らしの場などを含む総合的な文化的景観であり、むしろ都市景観の可能性を広げるとして積極的な評価を得た。

従来から続く傾向として、本年度も駅前再開発の応募が3件あり、その2件が高く評価された。ただ、それ以外の既存市街地での再生・再開発や、住民・商店街などが取り組む草の根的ボトムアップ型の応募も増えて欲しい。歴史的町並みは1件で、全国に優れた例が多いはずなので、その応募も期待される。

大賞を受賞した「南町田グランベリーパーク地区」は、車中心の時代の機能別施設主義でできていた既存の駅前エリアを、新しい時代の発想で組み換え、分断していた道路を廃し、人々が集い楽しめる回遊性のある街の複合空間を魅力的に創り出した画期的なプロジェクトである。自治体が主体性を発揮しつつ民間事業者と一体となって実現した総合的な取組である点が評価された。

優秀賞は4件に与えられた。まず、国の重要文化的景観に選定されている「奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観（国選定重要文化的景観）」は、砂鉄採取跡地を再生した美しい棚田が印象的だが、たたら製鉄の産業遺産としての施設や集落、町並みと積極的に繋ぐ工夫が見られ、全体として魅力ある景観を生んでいるという高評価を得て、都市景観大賞の優秀賞に相応しいと判断された。

「尾道市景観地区」は、海を望む斜面に発達した魅力的な景観を誇るこの尾道が、市民、民間の協力を得ながら、様々な段階を積み上げて景観まちづくりに継続的に取り組んできた姿勢が高く評価された。「景観地区」での高さ制限を設けて眺望を維持し、明快な規制のもと看板撤去も行う自治体の強い姿勢が尾道の魅力を支えているのが素晴らしい。

「徳山駅周辺地区」は、駅前広場から街路樹の軸線道路に至る象徴的な都心空間が美しい景観を実現すると同時に、人々に居場所と市民活動の場を与え、街に賑わいを生んだ優れた開発事例である。

「北大東島の燐鉱山由来の文化的景観地区」は、燐鉱山の遺構が集積した国選定文化的景観をベースに、島の自然資産であるドロマイトの石材を活用し、創意工夫して多彩な施設、建物を実現し風土に合う独自の景観を生んだ、ボトムアップによる街づくりの優れた成果である。

大賞 国土交通大臣賞

南町田グランベリーパーク地区

所在地 東京都町田市

地区面積 約 20ha

応募者

町田市、東急株式会社、東急電鉄株式会社、株式会社東急レクリエーション、株式会社ソニー・クリエイティブプロダクツ、株式会社東急設計コンサルタント、LAGUARDA.LOW ARCHITECTS、Fd Landscape、ティーハウス建築設計事務所、株式会社森緑地設計事務所、株式会社レジファインクリエイト

地区概要

「南町田グランベリーパーク」は、東京都町田市の南端にある東急田園都市線「南町田グランベリーパーク駅」（2019年10月1日に「南町田駅」から改称）南側の約20haのエリアで、地元自治体と鉄道事業者の強力なパートナーシップのもと、都市基盤・商業施設・都市公園などを一体的に再整備・再構築し「新しい暮らしの拠点」の創出に取り組んできた。

「鉄道駅と都市公園と商業施設が隣接している」という南町田ならではのまちの資源を最大限に生かし、既存道路等の再配置を行って商業街区と公園をスーパーブロック化した上に、駅・商業施設から公園、そして周辺の住宅市街地まで、歩車分離かつバリアフリーでつながる歩行者ネットワークを配置、さらに14の広場空間を地区全体に散りばめ、歩いて楽しいまちを構成した。これにより、駅と商業施設、公園がシームレスにつながり、まちびらき後、まるでひとつの「パーク」のようなこの新しいまちにおいて、人々が思い思いにパークライフを満喫する光景が日々更新されている。多世代がいきいきと暮らし、魅力あふれる持続可能なまち「南町田」は、次世代へとつなぐ選ばれるまちへと生まれ変わった。

審査講評

当地区は、既存の商業施設の再整備に伴い、街の構造を全面的に見直し官民一体となってシームレスな街を創った画期的計画である。従前は、ごく一般的な民間鉄道駅に接したアウトレットモールやシネコンなどであり、ショッピング目的の自動車による来街者も多い反面、周辺街区や隣接する都市公園などの関連性は皆無に近かった。こうした状況に対して、既存道路によって大きく分断されていた街区構造を抜本的に見直し、道路の付け替えによって各街区一体的につなげたことは特筆に値する。特に商業と都市公園の間に「パークライフ・サイト」と名付けられた高品質な接続空間を整備したことが、今回の大臣賞評価につながるものとなった。「パークライフ・サイト」はもとも大きな法面と道路によって分断されていた場を、文化施設や市民施設などを整備し連続的な空間としたものである。これによって、従来は訪れる人も稀であった都市公園に活力を与えた。また、これとつながる商業施設においても、周辺街区と平面的に分断されていた駐車場を立体的に再配置し、回遊型ショッピングモールの中に封じ込めた計画は巧みである。今後整備される予定の都市型住宅や複合利用ゾーンの完成によって、更に質の高い都市空間が形成されることを期待したい。（田中）



地区全景
官民連携・共同でスーパーブロック化し
駅直結で商業街区と都市公園が融合した



商業施設の屋上緑化から公園と融合する
パークプラザと鶴間公園を眺める



グランベリーパークへ向かう大階段と
植栽・水景エリアでまちの高揚感を演出した駅のホーム



個々に特徴のあるファサードを背に、
シンボルツリーを象徴としたグランベリープラザ

優秀賞 「都市景観の日」 実行委員会 会長賞

奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観 (国選定重要文化的景観)

所在地 島根県仁多郡奥出雲町

地区面積 約 1563.3ha

応募者 奥出雲町、奥出雲町教育委員会、奥出雲町農業遺産推進協議会、奥出雲町文化体験実行委員会、公益財団法人可部屋集成館、公益財団法人絲原記念館、一般社団法人奥出雲地域活性化プロジェクト、大原新田棚田保全管理委員会

地区概要

奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観は、主に近世から近代にかけて形成された、たたら製鉄の旧経営者の住居や庭園、たたら製鉄の遺構や現役で稼働するたたら製鉄の施設、たたら製鉄の原料である砂鉄を採取するための設備と砂鉄鉱山の跡地を再生した棚田などの要素を中心とした景観である。

地区内には、国指定重要文化財、国指定名勝、国登録有形文化財、国登録記念物などの文化財が多数あり、歴史的な景観を形成している。

地区内の全域が中山間地域に位置し、過疎化や高齢化が進んでいるが、研究機関と連携した調査によって景観が持つ地域資源としての価値が広く認識されたことから、住民の手により、景観のビューポイントへの展望台の設置や棚田のライトアップ、歴史的建造物をリノベーションした飲食店の開設などのほか、地区の小学生に対して、棚田の由来となった砂鉄採取の歴史を伝える体験事業など、様々な地域づくり事業が展開されるようになり、見学者も訪れるようになってきている。

審査講評

重要文化的景観の指定を受ける一方、この地区は広大かつ多くが棚田等の自然物であることから、「公共空間とその周りの宅地・建物等が一体となって良質で優れた都市景観が形成され、それを市民が十分に活用することによって、地域の活性化が図られている」とされる都市景観大賞の対象となりうるか、が審査のポイントとなった。広大な現地を長い時間にわたり熱心に紹介される中で、「景観」を単なる姿形の追求、または町民活動の目的等から一歩進め、地域資源であるたたら製鉄と鉄穴流し跡地の棚田を活かし、維持することで、これらが地域意識の醸成につながり、町民の街づくり活動を誘発しているものと理解できた。ここでは、文化的景観指定という道具を地域振興の契機として利用し、町民意識の高まりを「景観」という言葉で代表させることで、地域活性化活動の柱にしている。合わせて地域産業が長年にわたり生み出した自然景観の保全を図るものであり、景観形成に関する取り組みとして、社会の進歩を感じさせられる事例と言え、これらを高く評価したものである。(高見)



追谷集落は、出雲神話舞台の地、船通山の懐に位置する。かつて、たたら製鉄の経営者であったト蔵家が本拠を置いた集落であり、周囲には砂鉄採取跡地を再生した棚田が広がる。



たたら製鉄関連の施設の再利用・修景により、地域に根付いた建物を風景の一つとして活用している。この施設は、農事組合法人が農泊として活動の中心的施設とするとともに、外からの人を呼び混んでいる。組合の存在は棚田の良好な維持に重要な役割を果たしている。



三沢集落にある古い商家を町が中心となって改造した「みらいと奥出雲」。地域コミュニティの活動の場が街に開かれ新たな活力を生み出している。また内部の貸しオフィス区画は満室である。



砂鉄採取跡地を再生した棚田の大きな特徴として、砂鉄を採取するため大地を削る際に、祠や墓地、ご神木などの重要な場所を削らずに残したため小山のようになった「鉄穴残丘」があり、奥出雲の景観をユニークなものとしている。

優秀賞 「都市景観の日」 実行委員会 会長賞

尾道市景観地区（尾道・向島歴史的風致地区）

所在地 広島県尾道市

地区面積 約 200ha

応募者 尾道市

地区概要

本地区は、港町・商都として発展し、豪商により多くの寺社仏閣が寄進造られた。現在においても、旧家、路地の家並みなど地域特有のまちなみが色濃く残る斜面市街地、商店街には多くの歴史的建造物が点在している。

対岸の向島は、情緒ある渡船が行き交う尾道水道を形成する地域であり、現在は瀬戸内しまなみ海道へ向かう多くのサイクリストで賑わいが生まれている。

日本遺産にも認定されたこの地区は、国内外の多くの観光客が訪れる本市を代表する景観地区を形成し、近年では、空き家再生の取組、移住者、若い世代によるエリアリノベーションの取組により、まちなみ、歴史・文化資源を活かした地域再生の流れが活発化されている。

港エリアの開発や尾道駅のリニューアル等の追い風の中、瀬戸内しまなみ海道の玄関口にふさわしい景観を形成するため、海辺のプロムナードを軸として、舗装整備された小路など、既存の歩行者空間の回遊性を高めるとともに、当地区の代表的な観光スポットである千光寺公園の頂上エリアのリニューアルを進め、新たな視点場整備と連携した歩行者空間の創出等により、一層の魅力向上に取り組んでいる。

審査講評

天与の地形、地の利の上に刻まれた人々の暮らしは変化しながらも続き、今のまちがある。そう考えた時に、「視線の抜け」と「時の蓄積」、この二つが尾道のまちづくりを支える価値として共有されてきたように感じた。展望台とされた場所からの眺めはもちろん、急な上り下りで足元に縛られた目線が解放された時、密集した建物のあわい、駅に降り立った瞬間、視線は抜けてその先にある海、空、山が見える。この感覚が、私は今尾道にいる、という安心と幸せとなる。2度にわたるマンション開発を市民の力が押し留めたことはその証左であり、それを引き継いで景観法による景観地区指定による建物高さ制限や、屋上看板の撤去が進む。これらまちの骨格を整える方策とともに、随所に残る時の蓄積としての歴史的建物、小道の保全と活用がきめ細かく進む。民間の力が発揮される場面である。メニューとしてみれば特段新しくはない。しかしそれらを今、ここでできることとして積み重ねてきた。その成果は尾道の景観に確実に現れている。願わくば、多くの市民に支えられてきたこの景観まちづくりの意思と成果を明示的に記述し、価値の継承と今後の戦略をより確かなものとして欲しい。(佐々木)



向島から見た尾道市街地の山手斜面地



尾道駅前の緑地広場ウッドデッキ整備



浄土寺山からの夕景



尾道旧家路地

優秀賞 「都市景観の日」 実行委員会 会長賞

徳山駅周辺地区

所在地 山口県周南市

地区面積 約 150ha

応募者 周南市、周南市中心市街地活性化協議会、山口県建築士会徳山支部

地区概要

当地区は、周南市の中心市街地に位置し、整備前は、郊外への大型店の進出や、消費者ニーズの多様化等により、商店街の空洞化が進行していた。その後、新しい賑わいの拠点として、新駅ビルを整備することとなり、徳山駅前賑わい交流施設が開館した。

徳山駅前賑わい交流施設は、徳山駅と直結し、北口駅前広場と共に統一したデザインで構成されている。北口駅前広場からつながる御幸通、岐山通は、戦後の復興時に多くの市民の協力のもと行われた土地区画整理事業により造られ、これまで約 70 年間に渡り、緑豊かな公共空間として市民に親しまれてきた。

新しい賑わいのある空間と、市民に長年愛されてきた空間が合わさり、市の玄関口として相応しい都市景観を形成している。これらの空間を活用して、市民協働による多彩なイベントにより賑わいが創出され、清掃、マナーアップ活動により、景観の保全と共に、市民の街への誇りと愛着を深めること、周辺地域を含めた活性化にもつながっている。

今後も官民が協力し、より一層市民に愛される都市空間へと育てていく。

審査講評

戦災により甚大な被害を受けた街はその後の土地区画整理事業によって復興を遂げ、現在の骨格となる街並みを形成してきた。当地区は駅、目抜き通り、商業地区を中心に街の発展を担ってきたが、郊外型大型店の進出などにより空洞化し求心力を失っていた。この状況に取り組むため官と民が横断的に支援、提案、助言など積極的な交流を行ってきた。市は駅の南北自由通路、賑わい交流施設、駅前広場の事業を推進。クオリティの高い中心施設を整備し緑豊かな都市軸とその一帯の景観的連携を実現した。県内で初めて景観整備機構に指定された建築士会は守る、育てる、楽しむをキーワードに景観の保全、色彩のルール、街のアクティビティなどについて提言を続けてきた。中心市街地活性化協議会はマルシェ、クリーンプロジェクト、マナーアップなどに長年取り組んできた。地区の中核を成す賑わい交流施設と駅前広場は巧みに連携したデザインで高い水準にあり、年間 200 万人の来場、280 回に及ぶイベント開催につながっている。このように新旧の施設と継続的な活動が景観形成に大いに貢献していると評価され今回の受賞につながった。(富田)



徳山駅前賑わい交流施設（写真中央）と前面に広がる北口駅前広場



徳山駅前賑わい交流施設から北口駅前広場（写真下）、御幸通（写真中央）を望む



御幸通から市役所方面を望む
豊かな街路樹が四季折々の姿を見せる



夜のライトアップ
電気は全てコンビナート電力を活用している

優秀賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

北大東島の燐鉱山由来の文化的景観地区

所在地 沖縄県島尻郡北大東村

地区面積 約 160ha

応募者 北大東村、北大東村教育委員会、中部大学都市デザイン研究室、株式会社国建、株式会社与儀組、うふあがり島景観協議会

地区概要

当地区は、沖縄最東端の北大東島の西港近くに位置し、明治に入って開拓され、戦前に燐鉱山で栄えた地区を基盤として定住の歴史を重ねてきた。戦後に燐鉱山は閉鎖され、地区の活力は低下していったが、燐鉱山の遺構が各所に残された独自の文化的景観を形成してきた。2018年度の漁港開港に向けて、水産業や観光業の発展が期待される中、独自の文化的景観を保全・継承する機運が高まり、産業遺構の保存・活用により拠点施設を整備する取り組みを契機に、景観計画・景観条例の施行、国の史跡指定、重要文化的景観選定により、景観の保全・活用の仕組みが整うとともに、祭り広場の修景や景観に配慮した定住促進住宅の整備等の先導的な公共施設の整備が進展している。これらの取り組みの成果として、文化的景観をめぐる健康ウォーキングや遺跡の自主的な清掃活動への参加など、村民の自主的な取り組みが次第に拡大するなど、景観形成に向けた村民の意識は着実に高まっている。漁港開港をさらなる契機として、水産業や観光業の発展のために、文化的景観を保全・活用する取り組みを推進している。

審査講評

北大東島は、珊瑚礁が隆起してできたドロマイト（海水で変容した石灰岩）の土地に海鳥の糞が化石化してできたグアノ（燐を多く含む物質）が堆積しており、大正時代から昭和初期にかけて燐鉱石の採掘が行われていたという歴史をもつ。燐鉱山遺跡と集落の街区構成、およびその周囲に広がる採掘場跡や畑地の景観が今もなお残る地区は平成30年に国の重要文化的景観に選定されており、当時の生産施設や居住施設が残されている。島では、平成17年以降の文化財調査を行って遺構、歴史文化の保全継承に向けた行政、島民、地元団体等による各種の取組が行われており、屋根勾配を緩やかにした建築様式と島の天然資源であるドロマイト石材による組積造建造物や敷地周囲の石垣を基調とする景観は、平成27年策定された村の景観計画に位置付けられ、新たな漁港施設や祭り広場の修景整備、「うみんちゅ住宅」にも引き継がれていること。さらに、一連の景観に対する取り組みは、村のアイデンティティ醸成や定住促進、地域活性化に寄与していることが認められた。以上のことから、優秀賞に相応しいと評価された。（池邊）



島の西側から見た対象地区（字港周辺）
手前の西港に隣接し、燐鉱山に由来する集落を形成している



燐鉱山の近代化遺構（旧東洋製糖出張所）を
保存・復元した「りんこう交流館」



金刀比羅宮の和風の相撲檣と
島産ドロマイト石材を使用したトイレ



燐鉱山時代の社宅をモチーフに設計した
漁師用の定住促進住宅（通称：うみんちゅ住宅）

景観まちづくり活動・教育部門 受賞活動一覧

大賞 国土交通大臣賞

活動名	活動エリア	応募者
北斎通りまちづくりの会の取り組む 景観まちづくり活動	東京都 墨田区	・北斎通りまちづくりの会

特別賞「都市景観の日」実行委員会 会長賞

活動名	活動エリア	応募者
相模湾沿岸地域 40 余団体の 市民組織等による邸園等の利活用を 通じた保存啓発活動	神奈川県 相模湾沿岸 地域一帯 及び横浜市 戸塚区	・湘南邸園文化祭連絡協議会

優秀賞「都市景観の日」実行委員会 会長賞

活動名	活動エリア	応募者
まち歩きのユニバーサルデザイン プロジェクト黒石 2017~2019	青森県 黒石市	・青森県建築士会 南黒支部
<small>かねやままち</small> 山形県金山町の夜間景観づくり	山形県 最上郡 金山町	・山形県金山町 ・東京都市大学建築学科小林研究室

総評

審査委員長 小澤 紀美子

本部門への応募数は9件と少なめでしたが、活動や啓発・教育の内容は多彩で魅力的でした。特に、今回の応募取組みには、地域性に焦点をあてた「ストーリー」が多く、第一次審査では、書類に記されている内容で、意見交換を行い現地調査の対象を選定しました。

本部門の評価ポイントは、「継続性」「地域社会との関わり・連携」「独創性」「双方向性・対話性」「波及効果」の5点ですが、各地域の独自性をそれぞれ工夫して探り出して取組む姿が見えてくる内容が増えてきている印象でした。

応募いただいた取組みの表題だけをみると空間部門でかつて話題になっている地域もあり、その継続性のありようにも関心を寄せながら、世代交代による独創性や工夫、さらに活動や啓発・教育活動の効果の顕著な発現にも意見を交換し合って現地視察・調査の対象を絞り込みました。

第二次審査は、先に述べた5つのポイントから現地に赴いて、専門的な視点からも評価を確実にし、その結果を各担当の審査員が審査会でパワーポイントでのプレゼンを行い、今年度は大賞として1件、特別賞として1件、優秀賞として2件を選定しました。

詳細な評価に関しては、各審査講評を参照していただきますが、今回、「特別賞」を設定した理由を次に述べます。

過去も含めて応募いただいた活動や教育活動には、それぞれの地域の新しい価値を探り出し、その価値を認め、磨き合い、波及効果を高めていたといえます。しかし今回の特別賞の活動では、広いエリアにわたり企業や個人が保有する邸園が滅失する恐れのある地域の文化を醸成してきた潜在的な価値に光をあてて地域資産として個々の価値を認め、高め合うとともに、連携をはかることによる「小さなストーリー」を紡いでいく活動は今後、他地域で増えていくことが予想され、また、連携やネットワークによって各地域にある地域資産に新しい価値を再発見することも期待して設定しました。

大賞 国土交通大臣賞

北斎通りまちづくりの会の取り組む景観まちづくり活動

活動エリア 東京都墨田区亀沢一丁目、二丁目、三丁目、四丁目

応募者 北斎通りまちづくりの会

活動概要

葛飾北斎生誕の地である墨田区亀沢地区の地域住民が取り組む景観まちづくり活動である。この地は震災と戦災を経験し、歴史的な町並みや建造物はない。豊かな自然の風景もない。日本中どこにでもありそうな普通の町の暮らしから、わが町的生活景を見つめ直す。それは都市にありがちなランドマークや再開発に取り組むことではない。地域の歴史や文化、芸術などから表面的な景観の背後にある暮らしのストーリーを探り出す活動である。

かつて、ものづくりの町として栄えたこの地では、産業空洞化工場移転に伴い、町工場の跡地に民間の集合住宅の建設が進む。建替え調整協議会を立ち上げ、建設計画を進める事業者と地域住民は協議を重ねる。景観から地域のさまざまな課題まで話し合う。また、かつての津軽家弘前藩上屋敷の跡地にすみだ北斎美術館が開館したことから、毎年開催する北斎祭りでは、弘前ねぶた運行はじめ、北斎や美術、建築、歴史などに関連した講演会やワークショップをおこなう。そこで旧来の町会組織に新住民を取り込み、新たな形のコミュニティを模索する。将来の都市人口減少への対応も見つめた住民の地域力を高める活動である。

審査講評

本活動は、2005年から始まり参加者が多彩で広がりや深まりがある。居住し商売をする方々が積極的にまちを再発見し、新しい都市型コミュニティのかたちを探り、まちにシビックプライド（愛着と誇り）を育むという活動の枠組みはまさに本部門のねらいである。震災・戦災により歴史的町並や建造物を失い、地域遺産ともいべき核になるものがない中で、普通の暮らしの中的生活景を育てあげる活動を通して「暮らしの物語」を紡ぎだしていくプロセスを重視し、成果を生み出している活動である。新たな集合住宅の建設が進み新住民の増えていく過程で、開発指導要綱や集合住宅条例によって「地域コミュニティとの共生」を担保し、地域の誇りをマルチステークホルダー・プロセスとして住民のみならず企業、商店なども参画し、対話を重視して学び合い、さらに愛着を育む活動を静かな情熱で継続してきている。地域コミュニティへの参加促進と古くからの居住者との融合をめざして地域が有する専門性を活かし、さらに将来の地域の人口減少も視野に入れて、景観を切り口に住民の「地域力」を高める当事者性が高く評価された。（小澤）



平成 28 年の北斎通り
街路樹、歩道、電線地中化の整備が進む



建替え調整協議会
事業者と地域住民と専門家が協議する



弘前ねぶた絵師（津軽錦絵作家協会会長 三浦呑龍さん）が実演
北斎の絵画はねぶた絵に影響を与えた



灯のイベントの開催
子供達と一緒にろうそくの火を灯す

特別賞 「都市景観の日」 実行委員会 会長賞

相模湾沿岸地域の 40 余団体の市民組織等による 邸園等の利活用を通じた保存啓発活動

活動エリア 相模湾沿岸地域一帯及び横浜市戸塚区

応募者 湘南邸園文化祭連絡協議会

※相模湾沿岸地域…三浦市・横須賀市・葉山町・逗子市・鎌倉市・
藤沢市・茅ヶ崎市・平塚市・大磯町・二宮町・
小田原市・真鶴町・湯河原町・箱根町

活動概要

相模湾沿岸地域一帯は、明治中期から別荘・保有地を形成して、政財界人・文化人らが滞在・交流する地域として発展してきた。緑豊かで閑静な住宅地の街並みや歴史的建造物の佇まいは『湘南の邸園文化』として今も息づいている。しかし近年、所有者の相続や維持管理の負担などを理由にその多くが失われつつある。

湘南邸園文化祭連絡協議会は、この地域の歴史・文化を育み、人々の心に残る景観をかたちづけてきた邸宅・庭園や歴史的建造物（邸園等）の保全活用の機運を高めることを目的に、各地の NPO 等と県の協働により、平成 18 年に発足した。

当協議会では、毎年「湘南邸園文化祭」を開催しており、各地の NPO 等による邸園等の保全活用の取組みを、『湘南の邸園文化』という一筋の糸で紡ぎ、邸園等を利活用した様々な文化的催しを相模湾沿岸地域一帯で同時期に開催する取組である。令和元年度で 14 回目を迎え、6 市町での開催から、現在では 14 市町と広域的に展開する活動に成長した。

さらに、現在では、火災で失われた旧吉田茂邸や俣野別邸が再建される他、国・県・大磯町により明治記念大磯邸園が順次整備されるなど、邸園等の保全活用の機運は徐々に高まってきた。

審査講評

地域に存在する景観資源を発見し、守り、活用するのは景観まちづくりの一般的なアプローチである。しかしその活動の輪を広げて、価値が共有されるまでには多くのエネルギーを必要とする。明治期以来、首都圏で活躍する政財界人・文化人が滞在・交流してきた湘南地域には、その面影を残す邸宅・庭園、街並み、文化が息づいているが、近年の社会状況から存亡の危機に瀕している。その価値の大切さに気づいた市民の皆さんがそれぞれの地域で保存・活用の取り組みを進めている。本活動は、そうした個別の活動の自立性を前提にしながらネットワーク化し、多くの人に湘南の歴史や文化をわかりやすい形で示している。相互の情報交換によって個別活動の工夫も共有されているという。広域的な地域の価値を高めることに成功したこの活動は非常にユニークであり、他の地域はもとより、今後の景観政策に与える示唆が極めて大きい。市民の活動をベースにした本活動が継続していくことを期待したい。（福井）



湘南邸園文化祭@葉山町、葉山しおさい公園
庭園でのお琴演奏会の様子



湘南邸園文化祭@横須賀市、万代会館
地域で親しまれる歴史的建造物での寄席の様子



湘南邸園文化祭@箱根町、暁亭
かながわヘリテージマネージャーによる邸園解説の様子



湘南邸園文化祭@藤沢市、旧モーガン邸庭園
大学の研究室による間伐材を用いた時計作成のワークショップの様子

優秀賞 「都市景観の日」 実行委員会 会長賞

まち歩きユニバーサルデザインプロジェクト黒石 2017~2019

活動エリア 青森県黒石市

応募者 青森県建築士会 南黒支部

活動概要

黒石市には「こみせ」と呼ばれる雪国独特の家並みが今も残されている。住宅や店舗などの軒の外側に、冬の吹雪や夏の日射から歩行者を守る、藩政時代に考案された「木造のアーケード」である。建築士会南黒支部は1997年「こみせ」を活かしたまちづくりをテーマに地域貢献活動をスタート。2001年「こみせ通りにこんな建物があったらいいな！コンテスト」を開催。その後12年間、毎年テーマを変え、地域の小学生の建築デザインコンテストを開催してきた。2010年には「旧松の湯」の再生社会実験を行い「旧松の湯」は現在、「松の湯交流館」として再生した。

まち歩きユニバーサルデザインプロジェクトは増加する高齢者や外国人観光客や、まちを歩く多様な人々の立場に立ったユニバーサルデザインの実現に向けて、1年目は高校生・市民と一緒に「高齢者・障害者・外国人視点を意識したまち歩きのバリア探しワークショップ」「歩行者のための案内サインの改善課題抽出と対応方策の提案ワークショップ」を開催。2年目、3年目は高校生中心に「外国語対応強化と景観育成につながるデザインの提案・設置」「飲食店・商店の外国語対応の普及支援」について活動した。

審査講評

青森県建築士会南黒支部は、22年間にわたり、黒石市を代表する伝統的建造物群保存地区の「こみせ（雁木）」をテーマに、行政、商店、市民さらに小・中・高校生とまちづくりコンクールやワークショップを実施する等、様々なまちづくり活動を実施してきた。そして2017、18、19年度には、外国人観光客にもわかりやすい公共サインと民間店舗の屋外広告サインを地元の高校生とデザインし、提案発表した。その提案は、現在進めている黒石市の景観整備事業と共に、今後実現される予定である。高校生の豊かな発想を引き出しながら、黒石らしいユニークでユニバーサルなサイン整備を提案する活動は、歴史的な街並みをさらに魅力的にする試みとして高く評価できる。今後の公共と民間のサイン整備を多いに期待したい。（卯月）



黒石駅の音のでる案内サイン
完成したサインを黒石商業高校の生徒と一緒に体験



2017年第1回ワークショップの様子



2017年第2回ワークショップ
来訪者視点からのまち歩きバリア探し（歩行者天国での観光客インタビュー）



2019年第1回ワークショップ

優秀賞 「都市景観の日」 実行委員会 会長賞

かねやままち

山形県金山町の夜間景観づくり

活動エリア 山形県最上郡金山町

応募者 山形県金山町、東京都市大学建築学科小林研究室

活動概要

山形県金山町は、50年以上に亘り、行政と住民が一体となって、自然と人工、新と旧、公と民が混在して調和するような街並みづくり活動がされてきた。しかし夜間景観については、この美しく独特な街の特性が表れているとはいえなかった。そこで本活動は、互いに関連付けられた街の個性を夜間にも感じさせると同時に、安心して散策できるような照明環境をつくろうとした。2013年に、中心部の水路と堀と樹木に小さな光を取り付けた。そして次年から、橋や公民館、神社や寺、住宅や店舗などに範囲を広げ、公有地と私有地が混在するような景観照明づくりへと展開していった。設置場所は6年間で70箇所200灯を超えた。軒先に取り付けられたランプシェードは住民による手作りであり、金山杉を活用した新たな灯りも生まれている。公園と水路と建物と樹木に、同じルールで光が灯され、その境界が曖昧である。公と私が入り混じった光環境は、金山町が50年以上に亘って目指してきた景観づくりを引き継ぐものであり、他の地域にはない夜の風景が形成されている。

審査講評

50年以上にわたって街並み景観づくりに取り組んできた金山町は、公民連携、大学との協働、地場産業との関わりなど、常に最先端を走ってきた。本活動における夜間景観づくりはそれをさらに前に進めるものである。全額補助のワークショップではじめてのランプシェードの製作は、人づてに技術が伝承され、いまや役場では正確な設置数わからないという。金山住宅を普及させたこの地らしい話である。住民の方に話を聞くとひとつひとつの照明に思い入れがある。東京から来た学生は照明設置や維持管理をサポートし、全体計画や公共施設への光設置を担っており、住民と大学との協働関係が成立している。手づくりのランプシェードは街灯と違って人の気配を感じさせる。訪問した日は冷たい雨がふる暗い夜だった。雨で光る路面に反射した小さな灯りの群れは、街並みを明るく照らすほどではなかったが、金山のみなさんの暖かさや美意識を表しているようだった。(福井)



金山町の景観の象徴でもある大堰公園周辺の風景
水路（大堰）沿いの光と保存樹の光



大堰公園に面した住宅の杉板堀に灯るランプシェード
歩行者を誘導し、水路に光が映り込む



手前は民有地の蔵、中央は店舗兼住宅、奥は銀行
軒下には手作りのランプシェードが灯り、
漆喰の壁面はライトアップされる



麻紐を用いた灯りづくりワークショップ
左端は金山町の鈴木町長（当時）

令和2年度 都市景観大賞について

令和2年度は、下記の通り「都市空間部門」と「景観まちづくり活動・教育部門」について募集しました。

I 都市空間部門について

1. 表彰目的

都市景観大賞「都市空間部門」は、良好な都市景観を生み出す優れた事例を選定し、その実現に貢献した関係者を顕彰し、広く一般に公開することにより、より良い都市景観の形成を目指すものです。

2. 表彰内容

- ① 大賞（国土交通大臣賞） …………… 1地区
- ② 優秀賞 …………… 数地区
- ③ 特別賞 …………… 内容に応じ、適宜選定

3. 対象地区の要件

本賞は、街路や公園等の公共空間とその周りの宅地・建物等が一体となって良質で優れた都市景観が形成され、それを市民が十分に活用することによって、地域の活性化が図られている地区を対象とします。単独の公共施設、建築物、構造物は対象になりません。

4. 応募者の資格

良質で優れた都市景観の実現に深く寄与した地方公共団体、まちづくり組織、市民団体、民間企業・コンサルタント、独立行政法人、公社等とします。

※多くの関係者による共同応募が望ましいですが、単独でも応募者になります。

※応募者に地方公共団体が含まれない場合には、地方公共団体の確認を得たうえで応募してください。

5. 審査

「都市景観の日」実行委員会内に設置される都市景観大賞審査委員会において、応募図書等をもとに、内容を審査（書類選考、現地視察、ヒアリング）した上で、表彰地区を選定します。

6. 審査委員

[委員長]

陣内 秀信 法政大学特任教授、中央区立郷土天文館館長

[委員]

池邊このみ 千葉大学教授

卯月 盛夫 早稲田大学教授

岸井 隆幸 (一財)計量計画研究所代表理事、日本大学特任教授

佐々木 葉 早稲田大学教授

高見 公雄 法政大学教授

田中 一雄 (株)GKデザイン機構代表取締役

富田 泰行 トミタ・ライティングデザイン・オフィス代表取締役

国土交通省 都市局公園緑地・景観課長

国土交通省 都市局市街地整備課長

国土交通省 住宅局市街地建築課長

(順不同、敬称略、令和2年3月時点)

II 景観まちづくり活動・教育部門について

1. 表彰目的

都市景観大賞「景観まちづくり活動・教育部門」は、地域に関わる人々が景観に関心を持ち、自らの問題として捉え、その解決へ向けて活動できるよう意識啓発、知識の普及、景観法や景観に関する制度等（以下「景観制度」という。）を活用した取組等による活動を選定・顕彰し、広く一般に公開することにより、より良い都市景観の形成を目指すものです。

2. 表彰内容

- ① 大賞（国土交通大臣賞） …………… 1活動
- ② 特別賞 …………… 内容に応じ、適宜選定
- ③ 優秀賞 …………… 数活動

3. 応募対象

景観まちづくり教育の実施や、街歩きや景観に関するセミナーの開催、景観制度を活用した取組など景観まちづくり活動の実施による良好な景観形成等のための活動を地域に根差して行っており、それらが地域の人々の景観への意識・関心の高揚等につながっている優れた活動を対象とします。

4. 応募者の資格

景観まちづくり活動や景観まちづくり教育による意識啓発、知識の普及、景観制度を活用した取組などを行っている、学校、まちづくり組織、市民団体、地方公共団体などで、かつ、地域に根差した活動を3年以上継続して実施している団体とします。

5. 審査

「都市景観の日」実行委員会内に設置される都市景観大賞審査委員会において、応募図書等をもとに、内容を審査（書類選考、現地視察、ヒアリング）した上で、表彰活動を選定します。

6. 審査委員

[委員長]

小澤紀美子 東京学芸大学名誉教授

[委員]

卯月 盛夫 早稲田大学教授

楚良 浄 世田谷区玉川小学校指導教諭

福井 恒明 法政大学教授

国土交通省 都市局公園緑地・景観課長

(順不同、敬称略、令和2年3月現在)

■主催：「都市景観の日」実行委員会 *下線は協賛団体も兼ねています

(公財)都市づくりパブリックデザインセンター、(公財)都市計画協会、(一社)日本公園緑地協会、(独)都市再生機構、

(一財)民間都市開発推進機構、(公社)日本都市計画学会、(一財)都市みらい推進機構、(公社)街づくり区画整理協会、

(一社)日本屋外広告業団体連合会、全国景観会議、都市景観形成推進協議会、歴史的景観都市協議会、全国街路事業促進協議会

■後援：国土交通省

■協賛団体：

(一財)都市文化振興財団、(一財)計量計画研究所、(公財)区画整理促進機構、(公社)日本交通計画協会、(一社)再開発コーディネーター協会、

(一社)日本造園建設業協会、(一財)公園財団、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会、(公社)日本下水道協会、

(公財)自転車駐車場整備センター、(公社)立体駐車場工業会、全国土地区画整理事業推進協議会、都市再開発促進協議会

■事務局：(公財)都市づくりパブリックデザインセンター

〒112-0013 東京都文京区音羽2丁目2番2号 アベニュー音羽2階 TEL 03-6912-0799 URL <https://www.udc.or.jp>